

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

日本臨床外科学会国内外科研修を経験して

福井県立病院外科

山田 翔

この度、2019年8月12日から9月1日までの期間、日本臨床外科学会の国内外科研修制度に参加させていただきました。受け入れてくださった東京医科大学消化器・小児外科学分野教授 土田明彦先生、准教授 永川裕一先生には大変感謝しております。御高名な先生ですが、気さくに話かけてくださり、また医局員の先生方にも多大なるご配慮をいただき、充実した研修を送ることができ、感謝申し上げます。

私は、肝胆膵外科医として、日々診療にあたっており、その分野の中でも、膵臓手術に興味があります。東京医科大学病院は、日本で最も膵臓手術を行っている病院であり、その症例数の多さ、そして永川先生の行う神経を意識した膵臓手術の技術には、以前より大変興味を持っていました。インターネットでは、永川先生の行う膵頭十二指腸切除の無編集ビデオを見ることはできますが、画面ではなく、実際に手術を拝見したいと強く思い、国内研修の話が上司から来た時には、迷うことなく東京医科大学病院を希望しました。

実際に、3週間研修をさせていただき、まず驚いたことは開腹膵頭十二指腸切除術を1日2件行っていることでした。そして、その多い症例を、永川先生は執刀医または指導的助手の立場を一人で行われて、大変vitalityがあると思いました。

研修期間中は、研究会、祝日などがあり手術日が8日間でしたが、開腹膵頭十二指腸切除3件、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術2件、腹腔鏡下膵体尾部切除術2件、腹腔動脈幹合併切除を伴う膵体尾部切除術1件、開腹ロボット支援下膵頭十二指腸切除術1件、肝切除術1件と数多くの手術を経験させていただきました。また開腹手術においては実際に手洗いし、手術に参加させていただきました。手術中には、その手術のポイント、手術後にはスライドを使ったレクチャーをしてくださいました。手術は見て学べと言われることが多いですが、永川先生は、手術のポイントを具体的に言葉にしてくださいました。私たちが若手の肝胆膵外科医にとっても理解しやすかったです。膵頭十二指腸切除におけるA,B,C,Dの領域、上腸間膜動脈の神経のbundle領域など学会で講演されていた内容を、質問を交えながら直接伺うことで、大変理解が深まりました。

腹腔鏡手術では、胃や大腸の消化管領域では定型化されていますが、膵臓においては未だに定型化されていないのが日本の現状だと思います。しかし、この研修中に東京医科大学病院での見学させていただいた膵臓の腹腔鏡手術は切離、場の展開などすべてが定型化されていました。そして腹腔鏡手術だけではなく、開腹の膵頭十二指腸切除術も同様に定型化されていました。手術手技を統一し、手順などを決めることで、永川先生の行う手術を、若手の先生が同じように行うことが可能だと感じました。手術の定型化は、執刀医・助手ともに共通の認識が可能となり、手術時間の短縮、出血量低下につながり、手術の質が向上していることを実感しました。また後日には若手の先生が執刀された手術動画を見ながら、教育する場が設けられていました。執刀医の先生に対する永川先生のfeedbackは私にとっても大変勉強になりました。

またこの研修中に若手の先生たちと話す機会も多くあり、士気の高さに刺激を受けました。大学病院での忙しい業務の中で、手術の勉強のみではなく、論文作成、研究会参加などにも積極的に取り組んでおり、見習う点が多くありました。

これまで自分が執刀で行った膵頭十二指腸切除術では膵下縁での上腸間膜静脈の露出，第一空腸静脈と上腸間膜動脈の解剖を理解した上での空腸間膜切離，肝門部での胃十二指腸動脈のテーピング，膵体尾部切除術では膵上縁での門脈の露出，脾動脈テーピング，膵体尾部と脾臓の術野展開などうまくいかないことが多かったのですが，それらの疑問が今回の研修で解消されたと思いました。この知識を生かして，より質の高い手術を患者に提供し，北陸の医療に貢献したいと思っています。

今回の国内研修は，今後一人前の肝胆膵外科医になる上で，大変重要な経験となりました。今回の日本臨床外科学会の国内研修制度に参加させていただくにあたり，福井県立病院外科の道傳研司先生にご推薦いただき心より御礼申し上げます。また私が不在になったことで，迷惑をおかけした福井県立病院外科スタッフの皆様に，この場をお借りして御礼申し上げます。

